

アゼルバイジャンという国

～コーカサスの友好国を訪ねてみませんか～

在アゼルバイジャン日本国大使館



安定した内政・治安

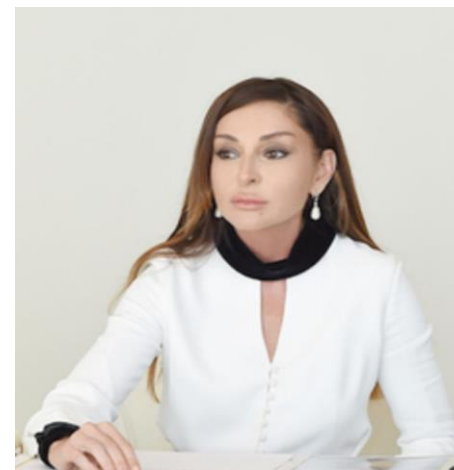
アゼルバイジャンは、独立（1991年）後の混乱期を経て、故ヘイダル・アリエフ前大統領、その子息のイルハム・アリエフ現大統領による長期安定政権の下、内政・治安は安定し、経済・社会も順調に発展しています。



イルハム・アリエフ
現大統領



「国父」ヘイダル・アリエフ
前大統領



メフリバン・アリエヴァ
第一副大統領
(大統領夫人)



(写真出典：大統領府HP)

©在アゼルバイジャン日本国大使館

アゼルバイジャン外務省

多角的な外交を展開

いずれの陣営からも等距離の第三極路線、トルコやイスラエルとの緊密な関係、イスラム協力機構や非同盟運動など多国間協力を通じ、多角的な外交を展開しています。

南コーカサス地域の平和と発展を追求

この地域の永続的な平和と発展の実現を目指し、紛争状態にあった隣国アルメニアとの間で平和条約締結交渉を行っています。

(写真出典)

出典：外務省公式HP (左)、大統領府公式HP (右)

©在アゼルバイジャン日本国大使館



「一つの民族、二つの国家」
トルコとアゼルバイジャン



非同盟運動閣僚級会合（2023年7月 バクー）



アゼルバイジャン・アルメニア・EU首脳会合
(2023年5月 ブリュッセル)

新たな経済社会構築の成長戦略

アゼルバイジャンの石油生産は19世紀以来の歴史をもち、近年の大規模石油・天然ガス開発により、急速な経済成長を実現しました。

アゼルバイジャン政府は現在、資源輸出による潤沢な資金力を活かし、経済社会のデジタル変革や脱炭素化の推進、産業多角化、人材育成等の成長戦略を推進しています。



(写真出典)

SOCAR公式HP(上)、スムガイト化学産業パーク公式HP(中央) BP公式HP(下)

©在アゼルバイジャン日本国大使館

アラト国際港（バクー）



国際的な輸送回廊の拠点

アゼルバイジャンは「中央回廊」（中国・中央アジア～アゼルバイジャン～トルコ・欧州）と「南北輸送回廊」（イラン～アゼルバイジャン～ロシア・欧州）が交差する国です。日本からは貨物直航便（成田～バクー）や「中央回廊」の鉄道等を活用し、アゼルバイジャンを広域的な物流拠点と位置付けることも可能です。



ヘイダル・アリエフ国際空港



バクー（アラト港）を中心とする輸送回廊



BTK鉄道開通式（2017年）

（写真出典）

ヘイダル・アリエフ国際空港公式HP（右上）

バクー港公式HP（左）その他当館撮影



ハーン宮殿



旧市街から眺めるフレイム・タワー



レンカランの蜜柑畑



ドルマ（アゼルバイジャン家庭料理）と国産ワイン



名産品のザクロ



シェキ教会

豊かな文化と歴史、自然と料理の魅力

アゼルバイジャンでは、紀元前から文明の十字路として多民族が行き交い、豊かで味わい深い文化が育まれてきました。

バクーやシェキの世界遺産に登録された旧市街や建造物など、各地に多くの歴史遺産があります。カスピ海や雪を頂くコーカサス山脈など、自然の魅力にも満ち溢れています。

石榴（ザクロ）を始めとする果物・野菜、羊肉、キャビア、地元ワインなど、食材は豊かで美味しく、多彩な民族料理は外国人旅行者を惹き付けています。

日本への親近感

アゼルバイジャンの人々はとても親日的で、日本人の国民性や経済社会に対する良いイメージを抱いてくれています。

日本食や伝統文化、アニメ・漫画、コスプレ等への関心も高く、テーマ毎のファンクラブもあります。柔道、空手、合気道等の武道が特に盛んで、競技人口は約4万人です。

日本語の学習熱も高く、2つの大学に日本語学科があります。また、バクー市とイスマイリ市には日本庭園が整備されています。

(写真出典)

ハタイ区公式HP（左下）、その他当館撮影

©在アゼルバイジャン日本国大使館



和菓子専門家による和菓子マスタークラス



お琴とアゼルバイジャン伝統楽器のコラボ



空手演武



バクー市ハタイ区の日本庭園



円借款
(シマル複合火力発電所 2 号機)



草の根無償資金協力
(シャマフ県給水施設建設)



草の根無償資金協力
(アグジャベディ県幼稚園)

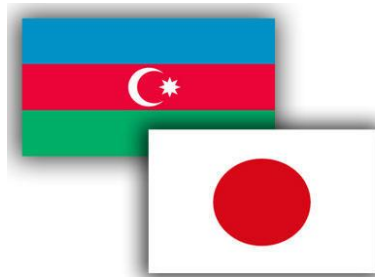


貨物直航便を運行するシルクウェイ航空

日本・アゼルバイジャン関係発展の期待

1992年の外交関係樹立から30年を経た今日、これまで築いた両国の友好協力関係を今後さらに発展させるため、政治・外交分野の連携のみならず、経済・ビジネスの促進、文化・人的交流など、幅広く互恵的な関係を促進することが、私たちの課題です。

このため、我が国の多くの企業、団体、個人の皆さまがアゼルバイジャンに関心を持ち、当国の人々との関係を深めていただけるよう、日本大使館としてもお役に立てればと考えております。



©在アゼルバイジャン日本大使館